



# やかただより

広川町  
全戸配布

第108号  
令和元年10月

## 2020年は濱口梧陵生誕200年

来年は、東京オリンピック・パラリンピック  
だそうで、日本国内は今から大騒ぎです。



ところで、広川町では、本町の大偉人「濱口梧陵翁」の生誕200年という節目の年になります。梧陵さんは、文政3年6月15日に広村で生まれました。この文政3年が1820年ということですので、来年が生誕200年ということになるのです。今回はあらためて梧陵さんの生い立ちを振り返ってみます。

梧陵さんは、ヤマサ醤油の濱口家の分家、酒屋七右衛門の長男として生まれ、七太と名付けられました。父七右衛門の兄が本家を継いでいたのですが、男の後継者がいなかったもので、12歳の時に本家に養子として入り、儀太と改名し、銚子のヤマサ醤油工場で、丁稚たちと同じような修行をはじめました。

15歳で元服して儀太郎と改名、20歳で、湯浅の池永まつと結婚しました。この頃から梧陵さんの社会活動が始まったと言えます。

嘉永6年(1853)3月家督を相続して、7代目儀兵衛となる。翌7年(改元して安政)に安政南海地震・津波が起り、広村は壊滅的な被害を受け、この後数年復旧・復興に全力を傾けた。同時に、江戸・関東でも蘭学医への支援なども行い、幅広い活躍をされました。

幕末、慶応2年(1866)には広村稽古場を再建して「耐久社」と命名し、教育活動を再開しました。「耐久社」は「耐久学舎」「私立耐久中学校」「県立耐久中学校」「県立耐久高校」へと進んでいます。旧制中学校の跡地は「広川町

立耐久中学校」として「耐久」の名称を継承しています。

梧陵さんは、ヤマサ醤油の当主という商人でありながら、紀州藩の勘定奉行に抜擢されたり和歌山藩の学習館知事など各種要職を歴任した。また、明治新政府からは初代の逓頭(現代の言葉でいう郵政大臣)に任命され、その後は和歌山県の初代県会議長にも選ばれました。

明治17年(1884)念願のアメリカ視察に出発し、各地を視察していましたが、翌年4月21日ニューヨークで客死されました。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

## 濱口梧陵生誕200年未来会議

来年の梧陵さん生誕200年を記念しての事業と行動計画を策定するために、広川町は「濱口梧陵生誕200年未来会議」を発足させました。梧陵さんの魅力を創生し、偉業を顕彰しながら、未来永劫に語り継がれていくよう発信しようとするものです。

9月17日この設立を記念して、講演会が開催されました。未来会議の委員でもあります、



四天王寺大学教授の曾野洋先生が「今こそ再発見、濱口梧陵」と題して講演されました。未来志向で「濱口梧陵学」を創設しようとの提案がありました。それには、当館が実施している

「稲むらの火講座」で話されたことを再編集統合し、話題を提供した先生方の基礎研究を蓄積していくということでした。

講演会には和歌山市内や大阪からも来られ、約120名が熱心に聞き入りました。



## 広小学校の避難訓練を視察しました！

こんにちは！ 「こども梧陵ガイドプロジェクトチーム」の関西大学近藤ゼミ、龍谷大学石原ゼミです！ 私たちは 9月2日に広小学校を訪問し、地震を想定した避難訓練を視察しました。

休み時間、気ままに過ごしているところに大地震が発生するという設定で、児童たちは自分のとっさの判断が試されることとなります。いよいよ、訓練開始。校舎の外にいた児童たちは、揺れがお



さまるとすぐに運動場の中央に集って身を寄せ合いました。教室の中にいた児童たちは素早く身の安全を確保した後、速やかに

運動場に集合しました。地震発生から点呼完了までの時間はなんと1分52秒！ 最初は少し不安げだった校長先生は、訓練の成果を「95点」と評価されておられました。この難しい設定に対して、児童たちは地震が起きた直後に何をしなければいけないのか、しっかり自分で判断し行動することができていました。

## 6年生の着衣水泳授業に参加しました！

避難訓練の後、6年生の「着衣水泳」の授業にも参加させていただきました。まず、普段の水泳とどこが違うのか佐々木先生からレクチャーがあり、どの児童も真剣に耳を傾けていました。その後、プールで実践！ 児童は「濡れた服がはり付いて気持ち悪い！」、「全然浮かない！」など、いつもとは勝手が違う

感覚に苦戦しながらも、何度も浮く練習をしていました。大学生もチャレンジしてみましたが、やはり同様の感想を持ちました。着衣水泳の後は小学校時代最後となるプールの自由時間！ 大学生も一緒にプールに入り、交流しました。



## 『安政聞録』翻訳文 (その8)

原作・古田 詠処 養源寺蔵

どうということかという、浜町から道向かい三軒の崩れた家などが、一時我が家へぶちあたったまま山積みとなり、格子は散り散りに破裂し、諸物・戸板・障子などが流れて散乱し、座敷を抜けて内柱前や前の木へとまったものもあった。又庭の戸口をぬけて、蔵の前にとまっていたものもあった。又床の間に大鳥・鯰・魚など、潮に引き残されており、このようなものが多かった。もし昨日念入りに戸を閉めて逃げていたら、諸物は激しい震動で突き倒され、大いに被害があったことであろう。これもまた運命といえよう。(不備が?) 転じて幸いとなったのだ。

広村の戸数339戸のうち、125戸が流失、10戸が壊れ、46戸が半壊、158戸が津波が入って破損した。恵比寿社の西湊は2箇所流失した。祇園社は流失し、大將軍社には潮が入りこみ、神宮寺は波が入って大破、安楽寺の本堂は波が入り込み大破死、その他の建物は残らず流失、円光寺は波が入って大破、覚円寺も同じ。正覚寺は上記四ヶ寺の内では軽く、湯戸が流れただけだった。養源寺は周囲の土堀が全て崩れ、松の木およそ6、70株倒れ、あるいは傷つき後に伐採された。人数は1323人の内、36人が溺死、うち6人が7歳未満の幼児であった。他の死者は12人が男、18人が女、怪我人はなく、家畜は無事であった。その後、次々と病気を起して死ぬ人が非常に多かった。これは全く津波の疲れであると考えられる。船は13艘が流された。一艘は漁船、二大漁船、三艘午操、四小漁船、三伝馬船、同じく六艘破損。大漁船一艘、午操船四、網四張流失(地曳、ワラアミ、魚網)、橋三ヶ所流失、伝馬船一艘。

### <稲むらの火の館の紹介>

濱口梧陵記念館/津波防災教育センター

〒643-0071 住所 和歌山県有田郡広川町広 671

<http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamuranohi/>

\*開館時間：午前10時～午後5時(受付終了4時)

\*休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日)

(世界津波の日の11月5日は開館)

年末年始(12/29～1/4)

